

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (50)



～ 自己肯定感が高まるクリエイティブな学校をめざして ～

石垣市立登野城小学校 校長 大浜 譲

「おはようございます!」「最初はグー・ジャンケンぽん!」

今年4月、7年ぶりに学校現場に戻ってきた私は、毎朝校門で繰り広げられる児童会役員と、登校してくる登小っ子の楽しそうなやり取りに日々元気をもらっています。

校門以外でも朝の時間は、周辺歩道の清掃、草花への水かけ、体育館や図書館の整理整頓、朝の放送等も分担して行われ、6年生を中心とした子どもたちのエネルギーが、学校に1日の始まりを告げる活力を与えているように感じます。

今年度本校は、校訓の「誠実」「勇敢」「礼節」をモットーに、勇気づけの教育につながる自己肯定感（自分には良いところがある、学校に行くのが楽しい等）の向上に取り組んでいます。

先述した朝の活動の時間は、「自分は、皆が気持ちよく1日のスタートができるように貢献している!」「〇〇をきれいにすることができて気持ちがいい!」など子どもたちの自己肯定感のアップに一役買っていると思っています。6月からは児童会が「最初はグー・ジャンケンぽん!」に続く新たな企画として、「月曜日は校歌ダンスで、登校してくる登小っ子を迎えよう!」という活動を始めました。

なぜ月曜日なのか聞くと、週始めの月曜日は元気が下がって登校してくる登小っ子が多いので、校歌ダンスで元気よく迎えたいというものでした。確かに大人だって、月曜日はどことなく憂鬱な朝を迎えることが多いですね。今では児童会役員以外にも校歌ダンス大好きな登小っ子が増え、これまでとは違うにぎやかな月曜日となっています。自分たちの手作りの企画で、学校を盛り上げるってすごいなあと思っています。



ところで、勇気づけの教育には、子どもたちを勇気づける（自己肯定感を育てる）大人の存在がとても大切だと考えます。学校で言えば、教職員がその役目を担っています。

去る7月7日は七夕でしたが、その直前の日曜日に、若手職員が外で何やらガサゴソと作業をしていたので覗いてみると、自分たちで調達した竹で、♪笹の葉サラサラの七夕広場を作っていました。そこには自分たちで考えて、子どもたちの笑顔のために頑張っている尊い姿がありました。すると、夜空の星々が綺麗に散りばめられたバック幕を急ぎよ作成して近くの壁に取り付ける職員がいたり、家にありましてと言って織姫と彦星の飾りを提供する職員がいたり、多くの職員の思いの中、素敵な七夕広場が完成しました。その後はもちろん、登小っ子皆の願い（なりたい自分、こうなってほしい世界等）が書かれた短冊が彩り豊かに飾られ、笹の葉とともに風に揺らめいています。七夕の神様には、皆の願いがぜひ叶うようお願いしたいものです。

子どもたちへの勇気づけは、各家庭においてはもちろん、地域においても実践されていることだと思います。学校・家庭・地域からたくさんの勇気づけをもらった子どもたちはきっと、自己肯定感に満ち、例え転んでもすぐに立ち上がって前に進んでいくたくましさを身に付けることでしょう。そのような子どもたちを育むために、これからも職員一丸となって取り組んでいきます。皆様の温かい励まし・ご支援・ご協力もよろしくお願いいたします。